

荒廃農地対策

中山間地域への対策は 担い手確保や農地集約化で

問 黒潮町においては耕作放棄され荒廃した農地が多く見受けられる。特に中山間地域ではこの状況が顕著であり、早期の対策が必要だ。町の考えと対策を問う。



あさの しゅういち
浅野 修一 議員

答 宮地 農業振興課長
農地は、耕作されることにより洪水等の災害の発生防止など、多面的機能を有しているが、中山間地域では耕地が狭く傾斜がきついなど、生産基盤が弱い弱で、町全体に

見て、荒廃農地が増加傾向にあると認識している。現在、国、県の事業を活用しているが、農業者が話し合いに基づき、地域農業の将来や担い手の明確化を行う、「人、農地プラン」を各地域で順次実行性のあるプランとしていく計画であり、担い手の確保や農地の集約化を図っていくことにしている。これら、ハード、ソフト

の両面的な事業継続を行うことにより、農業生産条件の不利な中山間地域等での農業生産活動の維持、荒廃農地抑制につなげていく。



耕作放棄され荒廃した農地(本谷地区)

問 休耕田や荒廃農地の再生に、貸し出し用トラクター等の整備はできないか。

答 宮地 農業振興課長
集落営農組織に対しては、農業機械等の導入に係る費用に対し県事業を活用した支援を行い、集落営農が所有しているトラクターの活用も、条件が整えば可能であると考える。

緊急時対策

ヘリポートの 取り決めは 黒潮消防署と 協議

問 当町には、本庁舎、黒潮消防署、鈴、加持川地区にヘリポートがあるが、一刻を争う状態の場合、各方面との取り決めはどのように整えているか。

答 徳廣 情報防災課長
町が整備した4カ所の他、上川口ヘリポートや佐賀地区、大方地区の土佐西南大規模公園なども利用している。ヘリポートの利用に関する取り決めは現在のところない。命に関わる重要な案件であり、マニュアルについて、黒潮消防署と協議をし、対応できるようにこれから考えていきたい。

問 南海トラフ地震など災害時のためのヘリポートの整備計画について、取り組みを問う。

答 徳廣 情報防災課長
緊急搬送だけを目的とした整備計画はない。大規模災害時でのヘリポートの運用は、浸水区域外

の小中学校グラウンド等を緊急離発着陸場として、使用することを想定している。災害時において、孤立が予想される中山間地域へのヘリポートの整備は検討しているが、地域要望も踏まえながら引き続き検討していく。



整備されたヘリポート(鈴地区)